



本市の若者に関する政策について

吉田 修 (無党派)



【働く場の創出について】

問 若者へのアンケート調査の結果は。

答 市政に関するアンケートの「これからも天草に住み続けたいか」という問いに「思う」または「どちらかと言えば思う」と答えた10代の割合は令和2年度54.5%、3年度と4年度は56.4%であった。

問 高校生の地元就職率は。

答 令和2年度24.2%、3年度26.8%、4年度22.6%と推移している。

問 市政に関するアンケートと実際の就職率には30%近い差があるが、若者の意向に伝えられていない現状をどう考えているか。

答 若者に一度は天草を離れても帰ってきてもらえるような支援を危機感を持って全力で実行していく。一方、行政だけでは難しいのも事実であり、地元企業における給料や福利厚生などの環境整備や天草で働き生活する魅力や意義を伝えていくことも必要と考えている。

【ライフステージに応じた若者支援策について】

問 本市は、まだまだ結婚支援に消極的。今後の取組について、市長の考えは。

答 結婚支援については前向きにあらゆる施策を検討していく。天草2市1町で事務レベルでの協議を加速していく。

問 男女共同参画課が結婚支援を担うことには違和感がある。所管替えを行う考えは。

答 これまでも、市民生活の向上・政策の実現に向けた組織の在り方について検討を行ってきた。結婚支援について政策推進に必要な組織の在り方を検討していく。



▲天草工業高校で開催された天草地域合同企業説明会



交通手段の確保について 合併浄化槽と下水道利用者の格差について

浜崎 義昭 (日本共産党)



【交通手段の確保について】

問 住民の方々から交通手段の確保について切実な要望があっている。自動車免許返納等で交通手段がなくなり不便を強いられている。今までと同じような生活を送れるよう行政の対応を求める。病院に行くにも交通弱者は困難を極めており、多くの方は今までと同じ暮らしをしたいと願っている。利用者主導型のオンデマンド交通システムづくりを求める。

答 移動困難者を支える仕組みづくりについて検討を行うとともに、移動困難者への支援を展開していく。



【合併浄化槽と下水道利用者の格差について】

問 本市における下水道利用者は約3万人で、浄化槽利用者は約2万人である。下水道と合併浄化槽利用者の使用料の格差をなくすべきである。一人暮らし世帯の1か月平均下水道使用料1,298円に対し、個人設置の浄化槽の維持管理料は年間約6万円となっている。下水道事業には、令和6年度一般会計から6億8,986万1,000円の繰入金がある。全国220自治体では、合併浄化槽の維持管理費用の一部を補助する制度を設けている自治体もある。下水道利用者と同じように、合併浄化槽利用者にも行政の支援を求める。

答 浄化槽維持管理費の補助については、今後、国や県の動向を注視しながら検討していきたい。



御所浦恐竜の島博物館について 雲仙天草国立公園70年について

松岡 寿 (政友会)



【御所浦恐竜の島博物館について】

問 御所浦恐竜の島博物館の開館は、天草東部の新たな観光、交流拠点として期待されるが、年間入館者の目標設定数は。

答 夏休み期間の繁忙期は月に9,000人と見込み、年間入館者数は3万7,000人としている。繁忙期は事前予約システムにて1時間当たり150人に制限する。

問 御所浦町への観光客や入館者の移動手段は定期航路等となり、その発着地は主に倉岳町棚底港になる。併設の市営駐車場は現状でも利用率が高いが現計画で確保できるのか、また拡充の検討はされているのか。

答 観光客増加への対応は、市営駐車場が満車となる場合は棚底港に隣接する緑地帯を確保し、繁忙期は市営体育館及びグラウンド駐車場を活用する。博物館のホームページを活用し周知を行っていく。現時点での駐車場の拡充計画はないが、利用状況を検証しながら検討していきたい。

【国立公園指定70年に向けて】

問 令和8年に雲仙天草国立公園70周年を迎える。天草西海岸国道389号下田南区間の改良工事が完成する必要があるがその工事の進捗はどの程度か。

答 下田北から下田南の整備延長は3.5km、そのうち1.8kmが供用開始されている。熊本県は、現在、鬼海ヶ浦の3号トンネルを含む一部区間を供用開始するための工事を進めている。3月には計画最後のトンネル工事が始まっており、本市としても熊本県と連携を図り早期完成を強く要望していく。



「八代・天草シーライン構想」の促進について

五嶋 善彦 (市民クラブ)



問 「八代・天草シーライン構想」は、上天草市松島町阿村付近から海上8.8kmを橋で渡り、八代外港に着岸し臨港線(片側2車線県道336号)を通り八代ICにつなぐものである。この構想が実現すると、天草市役所～八代IC間は現在の所要時間120分が短縮し、60分で行けるようになる。八代ICそばには新幹線駅もあり、市民生活での利便性の向上および観光を主体とする産業全体への好影響について、どのように考えているか。

答 橋を活用した移動の利便性向上や、観光客の誘致等に効果があると考えている。



▲青のラインが八代・天草シーライン

問 熊本県はTSMCの経済効果を県南地域にも広げることが重要とし、八代外港付近での工業団地化が進められている。本構想が実現すると、天草市上島地域から八代外港まで30分で駆け、通勤ができるようになるため定住促進につながるのではないかと。

答 本市の移住定住施策や各地域のまちづくりの魅力発信と合わせて、八代地域から30分圏内の通勤時間をうまくアピールできれば、定住者の増加につながるものと考えられる。

要望 推進大会の席上で、九州整備局長から、「地元の盛り上がり国を動かす」という発言があった。八代・天草シーライン構想の早期実現のため、市民の方々へのお知らせを徹底し、熊本天草間幹線道路と同様に、市民の盛り上がりを醸成するようお願いしたい。